

農業の新しい技術

No.546 (平成17年 8月)
分類コード 01 - 02
熊 本 県 農 政 部

トルコギキョウの覆輪発現安定化のための温度管理

農業研究センター 農産園芸研究所 花き研究室
担当者：渡邊 功

研究のねらい

トルコギキョウの覆輪品種では、花弁の10～30%が着色した花が最も観賞価値が高い。しかし、冬期に採花する作型では、花弁の周囲や全体が着色し、覆輪発現が乱れた花がみられ、切り花品質の低下を招いている。そこで、覆輪発現を改善するために必要な条件を検討した。

研究の成果

- 12月～3月の採花期では、花弁の着色割合が35～85%と高く、覆輪発現が乱れる。この覆輪発現の乱れは、昼間の低温に遭遇すると発生する。(図1と2と3)。
- 第1花蕾の発現後、昼間30～4時間以上の高温管理を4週間以上継続すると、覆輪発現を改善できる(図2と4と5)。

普及上の留意点

- 高温管理は、未展開葉を2～3枚開いて第1花蕾の発現を確認し、第1花蕾長(ガク基部からガク先端まで長さ)が1cmに達するまでに始め、第2花と第3花のガク基部から花弁先端の長さがそれぞれ2cmと1cmに達したら終了する。
- 以下の条件で10a当たりの昼間の高温処理費用はおよそ82,000円である。
 - 間口5.4m、長さ50mの単棟のパイプハウス1重カーテン使用(被覆・カーテン資材は塩化ビニル)
 - 12月～1月に、外気温8℃で9時30分から14時30分まで5時間の高温処理を35日間
 - A重油50円/リットル
 - 1月の1日の平均日射量の35%を利用
- 晴天時は、高温管理中に換気が遅れ、ハウス内温度が高くなりすぎないように注意する。
- 高温管理がしやすいよう一つのハウスには同じころ開花する覆輪品種を栽培する。

[具体的データ]

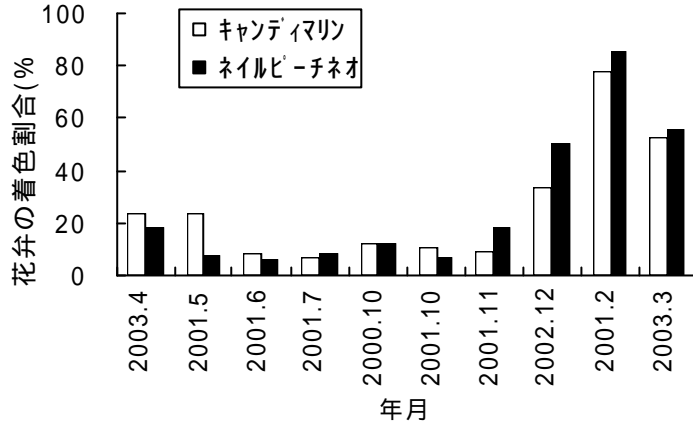


図1 花卉の着色割合の採花時期による変動

昼温30 4時間以上に継続して4週間以上
遭遇 (図4と5参照)



覆輪発現改善 (着色割合20%)

昼間の低温遭遇期間が長い (図3参照)



覆輪発現の乱れ

(着色割合: 左50%、右100%)

図2 第1花蕾発現後の昼温管理と覆輪発現の関係

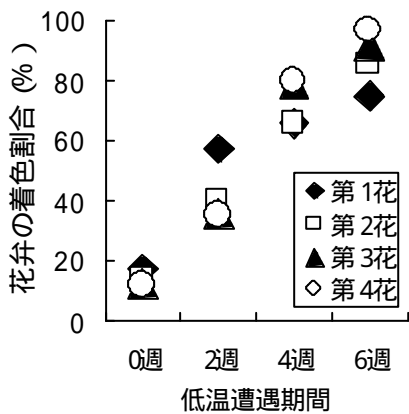


図3 昼間の低温遭遇期間が花卉の着色割合に及ぼす影響

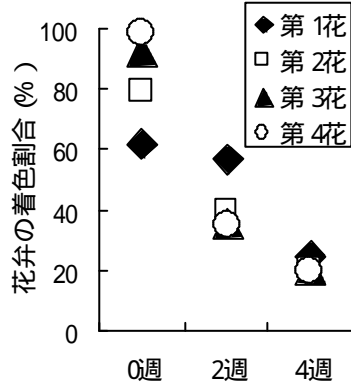


図4 昼間の高温遭遇期間が花卉の着色割合に及ぼす影響

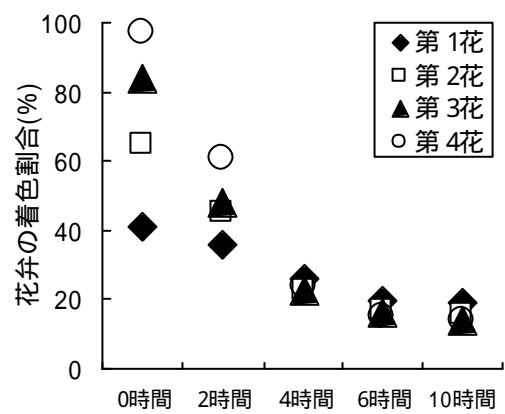


図5 昼間の高温遭遇時間が花卉の着色割合に及ぼす影響

注) 何れも供試品種は「メロウローズピコ」。何れも処理開始は2月上旬で3~4月採花、夜温は15。図3と4の高温は30、低温は20。図5の30以外の昼温は20。30の時間は正午を中心に設けた。主茎の頂花が第1花、1次側枝の頂花が第2花、2次側枝の頂花が第3花、3次側枝の頂花が第4花。